

# 世界初の「赤ちゃんポスト」を設置したSterniParkとの対話 1

柏木 恭典

## Dialogue with SterniPark that set up the first "Babyklappe" of the world

Yasunori KASHIWAGI

### 1 はじめに

本研究ノートは、2008年10月に行ったドイツのSterniParkでの現地インタビューの全内容である。1990年に設立された団体であるSterniParkは、2000年4月8日に、世界で初めて「赤ちゃんポスト」を設置したNPO団体（Verein）である<sup>1</sup>。数年前、我が国においても、「赤ちゃんポスト」は極めて話題になったが、なぜドイツで、なぜこの時期に創設されたのかということについては、ほとんど知られていない。感情的な議論が先走り、実際にどのような背景の中で赤ちゃんポストが作られたのかということについては、分かっていないのが現状であろう。たしかに我が国においても、SterniParkは度々メディアで紹介されているが、この団体がいったいどのような団体なのかについても、実は全くと言っていいほど知られていないのである。

インタビューは、SterniParkのスタッフのJudith Stuess氏、SterniParkの代表であるMoysich夫妻の娘で、現在Findelbabyプロジェクトの代表を務めるLeila Moysich氏、そしてBabyklappeが設置されているゲーテ幼稚園のルーム長のNina Greve先生の三人に行った。今回の研究ノートでは、その中のStuess氏との対話を掲載する。なお、このインタビューは筆者自身が直接アポイントを取り、その後、2008年暮れに実際にHamburgへ向かい、SterniPark本部を訪れた際に行われたものである。

なお、こうしたインタビューは、2008年の時点では日本人としては初であり、皆、長時間に及ぶインタビュ

ーを快く引き受けてくださった。この場を借りて感謝したい。

### 2 Judith Stuess氏との対話

インタビュー日：2008年10月29日（水）

K：筆者（柏木恭典）

S：Frau Judith Stuess氏

K：こんにちは。今日はこちらに来ることができて、とても嬉しく思っています。昨年、ウィーンにある赤ちゃんポストBabynestに行きました。けれど、こちらのBabyklappeが世界初の「赤ちゃんポスト」ですよ<sup>2</sup>

S：そうです。SterniParkがドイツで初のBabyklappeを設置しました。2000年の4月、ゲーテ通りに。

K：2000年4月ですか。

S：そうです。設置した後、すぐに活動が始まりました。そして、多くの方がこちらを訪れるようになりました。

K：その当初、2000年ですね、ドイツには二つのBabyklappeが登場しています。こちらと、バイエルンのアムベルクですね。

S：はい。その通りです。モーゼ・プロジェクトですね。そうこうする間に、ドイツ全土で94のBabyklappeが設置されました。私たち、SterniParkも3つのBabyklappeを有しています。一つ目は、ゲーテ通りのBabyklappe、二つ目は、ヴィルヘルムスブルク（Wilhelmsburg）のBabyklappeです。ここは保育園（KITA）に併設されています。三つ目はザトルプホル

1 厳密に言えば、日本のNPO法人とは異なるが、それに類する団体。この概念は、通常はクラブ、アソシエーション、協会、NPOなど、非常に多義的に使われている。

2 我が国では、Babyklappeのことを「赤ちゃんポスト」と呼んでいるが、その由来は不明である。同じように、Babyklappeという名称の由来も不明である、とされている。ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏においても、その名称は非常に様々である。

ン (Satrupholm) にあるBabyklappeです<sup>3</sup>。こちらは大規模な母子生活支援施設 (Mutter-Kinder Einrichtung) に併設されています。こちらは、昨年9月に設置されました。

K：全部で三つも設置しているのですか。

S：そうです。全部で三つのBabyklappeと三つの母子生活支援施設です。一つ目がこちらのハンブルク、二つ目がザトルプホルム、こちらは最も大規模です。60人が生活できます。

K：60人も、ですか。

S：はい。母親とお子さん、合計で60人まで生活可能です。

K：では、例えば30人のお母さんと30人の子どもが生活できる、ということですね。

S：例えば、そうですね。でも、たいていのお母さんは、複数の子どもを抱えていますから、60人は決して多くはないのです。

K：では、父親というのはどうなのでしょう。母と子が収容されるというのは分かりますが、父親というのは…

S：父親というのは非常にまれです。というのも、たいていの場合、妻が夫と別れる時、夫はほとんど何も聞かされておらず、妻が妊婦だということも、妻自身が秘密にするからです。だいたいいつも、妻は自分が妊娠していることを隠しているのです。

K：たいていの妻が妊娠のことについて秘密にしている、と言いますが、夫に対してだけですか。親や親族の方とか、そういう周辺の人々に対して言うことはないのですか。

S：そうですね。周囲の人全員に隠していることが多いです。自分の親にも、知り合いにも秘密にしていますね。ですから、私たちは、24時間対応可能な緊急連絡先を用意しています。女性たちが私たちのこのオフィシャルな電話番号を知れば、ここに電話をかけるチャンスを手にするようになります。例えば、赤ちゃんが生まれてくる前に、連絡を入れることが可能となります。最もよいケースの話ですが。そうすれば、私たちも彼女たちを助けることができます。

K：そのSOS緊急電話 (SOS Notrufnummer) は、こちらの事務局に来るんですよね。あなたも受け取るんですよね。

S：そうですね。

K：本当ですか？ こちらでですね。24時間ですね？

S：そうですね。スタッフの時間帯は様々ですけどね。SterniParkのこの事務所には、だいたい10人から12人くらいのスタッフがいます。そして、シフトがあります。たいていの場合、6時間制のシフトです。緊急電話はこの事務所の携帯電話につながります。なので、いつでも誰かが電話を取ることができます。夜も大丈夫です。そういうわけで、女性がこちらに電話をかけてきて、陣痛が始まって、病院に行きたいと言ってきても大丈夫なのです。そういう時は、準備が整っているこちらのスタッフが出向いて、その女性に付き添います。

K：では、シュテイスさんも同様に、その電話の相手である母親に付き添うわけですね。

S：はい。でも、様々です。まず、電話でその方と話します。そして、受理します。一人はそのまま電話のそばにいます。その後、少なくとも三人、車の運転手、女性、それからその女性の匿名の出産に連れ添うもう一人の女性の三人が揃います。つまり、困窮下の女性の、たいていは困窮下の母親ですが、そうした母親を救う様々な援助の手続きをとり、その上でその母親のところへと行き、そこで彼女に付き添うのです。その母親／女性に再度2、3のことを聞いて、彼女が望むなら、彼女と一緒に病院へ行き、「匿名の分娩 (Entbindung)」を行います。

K：「匿名の出産」ですね。つまり、こちらでSOSのサインをキャッチして、手続きをして、母親が望むことを提供する、と、そういうわけですね。

S：そういうことです。私たちのところには、いつも、あらゆる手続きを行うスタッフがいます。だいたい5、6名がここにいます。緊急の連絡が入ると、二人が動きます。一人が電話で手続きをとり、一人がその人のもとへと向かいます。私たちにとって、根本的にとても重要なことは、そうした女性たちに、匿名の分娩と

3 「ヴィルコーアシュタイン赤ちゃんポスト」と呼ばれている。

いうチャンスを与えることです。そして医療処置を受けるチャンスを与えることです。

K：匿名の分娩のチャンス、ですか。それ以外にもいろいろなチャンスを与えていると思うのですが。例えば、誰かに聞いてもらうチャンスだとか、相談のチャンスとか、手続きのチャンスとか。

S：私たちは、相談（Beratung）も行っています。まず、電話で話を聴きます。それから、私たちの母子生活支援施設に来てもらうよう、お願いします。そこで、カウンセリング、妊婦に関する相談、その他、様々な相談業務も行っています。

K：それはとても興味深いです。日本では、公的機関がそうした相談窓口になっています。役所ですね。児童相談所や子育て支援センターなど。けれど、ハンブルクでは、あなたたちが、あなたたちはVerein（NPO）ですよ、そういう民間のあなたたちが相談業務を行っている、と。

S：そうです。私たちのところへは、女性たちは匿名で問い合わせることができます。多くの場合、女性たちはインターネットで私たちのことを知ります。

K：インターネットですか。

S：そうです。インターネットなら誰にも気づかれませし、誰にも問われません。直接ここにやってくる人はほとんどいません。むしろ、最初は私たちのところではないどこか別のところに問い合わせてしまいます。妊娠のことを誰にも知られたくないので。ですから、私たちのHPに、緊急の問い合わせ先を載せてあるのです。これを見て、女性は私たちのところに電話をかけてくるのです。

K：これはすごく新しい考えですね。

S：女性が匿名のままで問い合わせることができるよう、サービスを整えることがまず第一の段階ですね。ほとんどの場合、問い合わせる女性の状況は極めて悲惨です。それに、誰にも相談できない状況なのです。そこで、私たちが彼女たちを守るのです。何も話さなくてもいいですよ、私たちの施設にいらしてください、と言うだけです。まずは、いてくれるだけでいいのですから。もし望むなら、医療的な支援も受けられますし、相談による支援なども行います。それから、次の段階へと進みます。女性たちにこう尋ねるのです。

「あなたは匿名のままでいいですか?」、「あなたは匿名のままで子どもを出産したいですか?」、と。ある女性は、「内密（vertraulich）にしていただけたら」、と言ってきます。その女性は、戸籍役場（Standesamt）に対して、自分の情報を告げるわけですが、そうすると、健康保険組合（Krankenkasse）やその他の機関での重要な書類や文書が出てきます。親に郵便などで知られてはならないのです。また、親族や親戚などにも知られてはなりません。それでも、生まれてくる子どもには戸籍登録が必要なのです。

K：あなたは、実に様々な母親がいる、とおっしゃいました。一方で、母親は匿名のままでいいというわけですが、他方で、戸籍（Personen）を子どもに与えたいというわけですよ。

S：それが、私の伝えたかったことです。私たちは、1999年以降、これまで300人以上の女性の支援を行ってきました。およそ320人です。その半分以上の女性、つまり60パーセント以上の女性が、子どもと共に暮らす生活を選んでいきます。それから、匿名の出産、ここに来る女性の多くは匿名の分娩を望んでいるわけですが、匿名でない出産が、昨年、一件ありました。その他の女性は、内密に出産をします。そして、住民登録をします。一人ひとりすべてに対応します。もちろん私たちは匿名性を重視します。それが、内密に出産ということ。

K：なるほど。では、実際のところ、昨年は何人くらいの赤ちゃんがこちらのBabyklappeに預けられたのですか?

S：昨年のですか… ちょっと待ってください。詳しいことが知りたいでしょう。

K：ありがとうございます。

S：どこかにデータがあったと思うのですが… 99年以降、データを取っていますが、預けられる赤ちゃんの数は減ってきていますね。少なくなりました。でも、昨年のデータは…

K：結構ですよ。こちらで調べますので。それより、もっとSterniParkの思想や哲学についてお伺いしたいと思います。

S：こちらに、これまで行ってきたプレゼンテーションがあります。また、こちらには、緊急連絡先を載せ

たパンフレットもあります。Babyklappeに関するパンフレットも作りました…

K：ところで、そもそも「匿名の出産」と「赤ちゃんポスト」の違いは何なのですか？

S：匿名の出産というのは、女性が出産することです。私たちと一緒に病院に行き、分娩するのです。そして、きちんと治療を受けます。その際、匿名性がきちんと守られなければなりません。それに対して、「赤ちゃんポスト」というのは、たいてい自分の力で赤ちゃんを産んだお母さんが問題となるわけです。そのお母さんが赤ちゃんを預ける場所が赤ちゃんポストですね。

K：とすると、両者の違いというのは、産む前の援助か、あるいは産んだ後の援助か、ということになりますよね？

S：そうです。ですから、私たちは、母親が予め私たちに問い合わせるように促そう、という試みを行っているのです。

K：なるほど。

S：その際、三つの要素があります。緊急用のSOS電話。それから里親（Pflegeeltern）ですね。最初の8週間養育のお手伝いをする里親です。この8週間が重要なのです。8週間を過ぎると、養子縁組の法律が有効になるので、8週間なのです。この8週間の間、赤ちゃんはその里親の下に預けられ、そこで養育されるのです。

K：その里親というのは、ボランティアですか。それとも公的なものなのですか？

S：公的なものです。里親は赤ちゃんを受け入れますが、私たちがベビーカーやおむつや乳児用食品などを里親に提供します。でも、それ以外のことはすべて里親に行ってもらいます。

K：なるほど。その8週間の間、母親は考えるんですね。自分で育てるべきかどうか、と。

S：その通りです。母親は、私たちのところに滞在する機会も与えられます。考える時間もできます。それに、いつでもお子さんに会うこともできます。里親のところに行くこともできますし、また里親に連れてき

てもらうことも可能です。そして8週間後、母親は、決めなければなりません。子どもを引き取るのか、それとも子どもを養子縁組に委ねるのか、を。

K：では、もし母親が子どもを引き取らないと決断するとどうなるのですか。いったい誰が子どもを引き取ることになるのですか。

S：そうすると、8週間後には里親の家は出なければなりません。そして、児童相談所の人たちと共に、養子縁組の手続きがとられます。そして、子どもを養子として引き取る養父母（Adoptiveltern）が決まります。それから私たちは、実の母親からの要望を聞きとるよう努めます。そして、一年間、新たな養父母が適任かどうかを検討します。つまり、その子にとってふさわしい養父母であるかどうかを一年間チェックします。その後、母親のサイン（Unterschrift）で養子縁組が締結します。

K：とすると、あなたたちも、子どもの実の父母が誰であるかは分かるわけですね。

S：そうです。私たちも実父母の方と会いますね。いずれにしてもSterniParkが親を選び出すわけではありません。それは、養子縁組の調停局（Vermittlungsstelle）が児童相談所と共に、養子を引き取る養父母を選び出すのです<sup>4</sup>。

K：でも、分かりません。赤ちゃんポストの場合、子を預ける親は「匿名」ですよ。そうすると、やはり実親のサインはもらえないのではないですか。というのも、親が誰だか分からないから。その場合は、サインもいらないのですよね？

S：そうです。問い合わせがない場合は、母親からのサインをいただくことはありません。その点についてもっと詳しく言えば、これまで私たちの赤ちゃんポストでは、35人の赤ちゃんが預けられましたが、その中で、再度、8人の母親からの問い合わせがありました。

K：8人の母親ですか。この8、9年の間に、ですよ。

S：そうです。

4 欧州では、養子縁組制度が非常に整っている。例えば「婚外子」の数は、明らかにアジア諸国とヨーロッパ諸国の間に開きがある。桁が一つ違うというのが実情であろう。日本では、「非嫡出子」という用語の差別性がようやく指摘されるようになってきた程度である。「未婚の母」に対する偏見はまだ根強いと考えてよいだろう。スウェーデンではほぼ二人に一人が「婚外子」である、ということ念頭に置くと、実子の概念を一つ取ってみても実に様々なのである。

K：35人の赤ちゃんが預けられ、8人の母親がその後問い合わせてきた、と。それ以外の母親は匿名だったということですね。

S：そうです。匿名です。

K：では、その残りの27人のお子さんが里親に預けられた、と。そして、その後、その27人は皆、8週間を経て、養父母の下に引き取られた、と、そういうことですよ。つまり、養子縁組で。すべてのお子さんが養子になったんですか。

S：すべてではないですね。子どもとの共同生活を考えることがもうできないという母親の子どもだけです。

K：なるほど。ところで、ハンブルクには、児童養護施設（Kinderheim）はあるのですか。

S：はい。ありますよ。

K：こちらで預かったお子さんには、そういう養護施設に入所する可能性というのがあるのですか？

S：そういう可能性があるのかどうか、分かりません。私たちができるのは、養子縁組制度に子どもを委ねるところまでです。だから、そこまでは分かりません。

K：日本とは違いますね。養子縁組は日本ではそれほどポピュラーではありません。何か子どもに問題があれば、養護施設に入所することになります。当然、色々な状況の子どもたちがいるので、争いやケンカ、摩擦も絶えません。とてもストレスの多い場所となっています。

S：日本の養護施設でも、子どもたちは家族のような形態で共同生活をしているのですか？

K：はい。

S：そこはドイツと同じですね。SOS Kinderdorf<sup>5</sup>などもそうですよね。日本では、養子縁組の需要が少ないのでしょうか。ドイツでは、一人の子どもに対して、およそ26組の養父母たちが申し込みをします。たくさんの方がいるのです。

K：では、ドイツには、子どもが欲しい大人というのが実に多いのですね。

S：子どもができなくて養子を求める人もいます。また、ドイツでは、養子を求めて海外に行く人も多いです。例えばロシアやその他の国に行くのです。なぜ

かという、そちらの方が簡単に養子がもらえるからです。

K：そうなのですか。それで、ドイツに連れてきてしまうのですか。

S：そうです。というのも、ドイツでは、養父母になるための条件が非常に厳しいからです。適した年齢であるかどうか、きちんと結婚しているかどうか、経済状況はしっかりしているかなどなど、条件が厳しいのです。ですので、養子をもらうことはとても難しいのです。もちろん、このようにきちんと養父母として適任かどうかをチェックすることはとても大切なことです。それは明らかです。日本ではどうですか。養子縁組は行われているんですかね。

K：はい。養子縁組制度はありますが、非常に稀です。

S：稀ですか。需要もないのですか。

K：需要は、ないことはないのです。ただ行政上の問題や文化的な問題もあって、なかなかうまく機能していないというのが実態だと認識しています。日本人もたしかに子どもが欲しいと思っています。様々な状況があり、中には子どもに恵まれない夫婦もたくさんいます。ですから、需要はあるはずなのです。しかし、それにもかかわらず…

S：それにもかかわらず…

K：にもかかわらず、うまくいかないんですね。だからこそ、日本人にもこうしたSterniParkのような団体が必要なのです。それから、興味深いことがあります。日本でも「赤ちゃんポスト」はとても有名になりました。日本人の誰もが、その名を知っています。にもかかわらず、まだ一か所しか赤ちゃんポストがないのです。私はその理由を知りたいのです。どうしてドイツではこれほどまでに、94か所まで増えたのか。どうしてこれほどまでに広まったのか。その理由は何だったのか…

S：どうしてか。…やはり、使われたから、利用されたからでしょうね。本当に、どのBabyklappeにも子どもが預けられているのですよ。それに、きっと結局はBabyklappeが緊急の解決策（Notlösung）としてよかったのだと思います。私たちは、前もって女性たちと連

5 英語名「SOS Children's Villages International」。オーストリアに拠点をもつ国際的な児童支援組織。

絡を取ることができますし、医療サポートも提供できます。私たちは、前もって様々な可能性を女性たちに提供することができるのです。女性たちの差し迫った要求を受け止める最後の場所なのですね。たいていの場合、女性たちは自分一人で赤ちゃんを産み落とします。へその緒も自分で切るのです。このように、女性と子どもの間にはいろいろなことが起こるのです。私たちとしては、そうなる前に、私たちのところに来てもらいたいですし、また、女性が望むならば、きちんと匿名性は守りたいと思っています。

K：なるほど。

S：そして、私たちのSterniParkには、母子生活支援施設があります。Satrupの母子生活支援施設についてご紹介しましょう。こちらの2階に、母親と子どもが暮らす生活スペースがあります。また、(写真を示しながら)こちらがその建物です。ここに彼女たちは暮らしています。

K：何人くらいの人が暮らしているのですか？

S：60人です。、ゲート通りに行くと、Babyklappeがあります。もうすぐ10年になります。こちらは、基本的に孤児救済プロジェクト (Findelbaby Projekt) ではなく、幼稚園 (Kindergarten) なのです。

K：そうでしたね。SterniParkは、幼稚園、森の幼稚園、KITAなどを所有していますよね。

S：全部で9施設、運営しています。全部で100人の子どもの養育を行っています。

K：これは非常に興味深いです。私は日本で幼稚園教諭や保育士の養成校に勤務しています。ですから、幼稚園や保育園に強い関心をもつ学生を相手にしています。幼稚園と赤ちゃんポストが関連しているというのはとても興味深いことです。そして、10年前にSterniParkのみなさんがそうしたことに関心をもたれた、というのはとても興味深いです。Moysichさんもそうですよね。でも、一番最初に「赤ちゃんポスト」を思いついたのは、現場の幼稚園の先生だったのではないのでしょうか。

S：そうです。

K：つまり、そうした施設を作ろうとしたのは、幼稚園の先生たちだった、と。

S：はい。それに、幼稚園ではいつも必ず誰かが働い

ているので、幼稚園に併設するのが望ましいと考えたのです。すぐに誰かが駆けつけられます。すぐに見つけることができますし、またすぐに病院に連れていけます。

K：それに思ったのですが、SterniParkはそもそも子どもたちのための団体ですよ。幼稚園ができて、そして、母子生活支援施設を設置し、Babyklappeという流れですか。

S：いいえ、幼稚園ができて、Babyklappeができて、最後に母子生活支援施設という流れですね。

K：あ、そうでしたか。誤解していました。

S：最初に幼稚園ですね。それから、Babyklappe。そして、そのBabyklappeとの関連の中で、母子生活支援施設が生まれました。Babyklappeと母子生活支援施設は、言ってみれば共に一体となっているものなんですけどね。

K：つまり、Babyklappeの延長線上に母子生活支援施設があるということですね。あと、森の幼稚園もありますが、いつ森の幼稚園は作られたのですか。

S：結構古くからありますよ。96年だと思います。

K：根本的には、Moysich夫妻がこのSterniParkを設立したんですよね。いったい何人の人がこちらのSterniParkで働いているのですか？

S：合計で、350人が働いています。

K：350人ですか！！

S：そうです。私たちは、母子生活支援施設が3施設、ここHamburgとSatrupとHalleの三か所です。それから、幼稚園が9園あります。それから、広大な敷地のFerienhofという休暇施設もっています。

K：Ferienhofとはどのような施設なのですか？

S：子どもたちが例えば夏休みなどを過ごす施設です。少年の家ですね。遊んだり、何かの講習会をしたりします。社会教育施設とも言います。社会教育主事の指導もあり、ゼミナールをしたり、展示会をしたりしています。ハイキングもその近くでたくさんできます。もちろん子どもの養育もそこで行います。

K：そんな施設も運営されているのですか。すごい数です。

S：そうですね。比較的大きな団体だと思います。今回はあなたのために、ここにある様々な資料をもって

きましたので、是非読んでみてください。

K：ありがとうございます。それから、もう一つ、この機会に聞いておきたいことがあります。日本では、Babyklappeは、「子どもを捨てるBOX」と理解されています。「子捨て箱」ですね。そのため、日本人の多くは、Babyklappeをあまり良く思っていない。「あんなのはだめだ」、「日本には必要ない」と言った声も聞こえます。それでも、日本でも毎年児童遺棄やえい児殺しが起こっています。高校生の女の子が妊娠し、親に隠したまま、一人で出産し、そのままその子どもを置き去りにして、死なせてしまい、逮捕され、といった事件もありました。ですから、私たちも、あなたたちの言う「困窮下の女性 (Frauen in Not)」という概念を理解すべきなのです。ただ、この場合、いったいどんな女性が困窮下の女性なのでしょう。いろいろな女性、いろいろな母親がいるとは思いますが。

S：実にいろいろな母親がいます。最も「困窮下」の状態にいるのは、やはり経済的に厳しい女性です。辛らつです。例えば、既に二人のお子さんがいたとします。経済的に保証されていなかったとしましょう。とてもじゃないですが、三人目は無理です。それでも、妊婦になってしまった。でも、中絶はしたくない。そういう時はどうしたらよいのでしょうか。きっと、ずっと出産するまでの長い間、家族や自分の夫には秘密にしておくでしょう。そして、自分で何とかしなければいけないでしょう。そういうわけで、その女性は自宅で、例えば浴室などで自ら赤ちゃんを産むか、あるいは、その前に私たちのところに問い合わせるかどちらか、ということになるのです。こうしたシチュエーションは何度も繰り返し起こります。このように女性一人で出産するというシチュエーションでは、もちろん既に何かが起こっているものです。というのも、ずっと、その当事者であれば誰もが抱くであろう生活上の不安を抱えていたからです。赤ちゃんが生まれたらどうしよう、赤ちゃんをどこに託せばよいのだろう、次の「赤ちゃんポスト」はどこにしよう、などなど。こういう人はとても大変です。

K：それは若い人ですか。

S：いえ、それも様々です。もちろん若いお母さんもいますが、ごく少数です。たいていのお母さんは、20歳

以上ですね。職業もあって、大人として自立していて、それなりに自分で生計を立てている人ですね。若い女性の場合は、だいたいその女性の家族が助けてくれますね。17歳の娘さんだったら、その家族が支援してくれます。

K：若い女性なら家族が助けてくれ、20歳以上の若い成人女性が助けを必要としている？！

S：たいていの女性は、自身の家族との関係がよくありません。信頼できる知人もほとんどいないのです。そういう知人が一人もいない人もいます。私たちはそういう女性をたくさん見てきました。もちろんケースは様々です。夫から暴力を受ける女性もいます。また、自身の妊娠のことを家族に話せないイスラムの女性もいます。

K：たしかSterniParkのHPで読んだのだと思うのですが、イスラムでは未婚の母や女性の中絶に対してはとても厳格で厳しいとか…

S：また、イスラム的な背景からすれば、女性に対する家族の抑圧というのもとても強いのです。そのため、当然妊娠や出産のことが秘密にされることが多いのです。でも、こちらに来るのも非常に困難のようです。

K：Hamburgにはどれくらいのイスラムの方が住んでいるのですか。

S：どのくらいか、…分からないですね。でも、ずいぶん多いですよ。

K：カトリック教徒の場合はどうですか。Babyklappeに対してどう考えているのでしょうか。

S：Babyklappeや困窮下の女性の救済といったテーマについては、カトリックもプロテスタントも非常にオープンです。このテーマに対して、教会は、非常にオープンに捉えてくれています。例えば教会的な背景を強くもつカトリック女性連盟 (Sozialdienst) のように、Babyklappeを併設する施設もたくさんあるのですよ。そういう施設の担い手は教会ですからね。

K：なるほど。とするなら、赤ちゃんポストに預けられる子の中には、白人の赤ちゃんのみならず、有色人種の赤ちゃんもいる、ということですよ。

S：もちろんです。ただ具体的な割合や数は分かりません。しかし、大部分はやはり白人の子ですね。

K：そうなんですか。…あともう一つお聞きします。いったいどこから「赤ちゃんポスト」という発想をたんですか。モチーフというか、手本というか。

S：う～ん、それはMoysich氏に尋ねてみてください。私にはよく分かりません。

K：例えば、イタリアに回転台（Drehlade）というのがかつてありました。

S：そうですね。知ってます。9世紀のイタリアにあった中世の回転台ですよ。私はもともと大学で司書の勉強をしていて、本で読んだことがあります。こちらのSterniParkに来て8カ月ですが、それ以前からBabyklappeについてはよく本で読んでいました。

K：長時間、ありがとうございました。

S：どういたしまして。

### 3 考察と今後の課題—なぜドイツでは赤ちゃんポストが広まったのか

我が国においても、「赤ちゃんポスト」という概念は既に広く知られている。熊本県の「このとりのゆりかご」の設置以来、様々な議論が行われてきた。だが、現実的には、赤ちゃんポストは未だに一ヶ所しか設置されておらず、ドイツのような広まりはみせていない。赤ちゃんポストに保護されたケースの件数を考慮すれば、もっと広まっても不思議ではないのだが、広まらない。なぜ日本では赤ちゃんポストは広まらないのか。また、なぜこれだけのニーズがあるにもかかわらず、議論も発展しないのか。これが、筆者が今回、インタビューをさせていただく上での最初の疑問であった。

ドイツのSterniParkでのインタビューを通じて、なぜドイツで赤ちゃんポストが生まれ、そして、全国各地に広まったのか、その一端が明らかになった。本インタビューにもあるように、インターネットの普及が大きな役割を果たしている。インターネットと、赤ちゃんポストの代名詞である「匿名性」は見事に重なり合っている。これまでの母子支援や乳児保護は、匿名性が保障されず、自分に関する情報がすべて開示されてしまうものばかりであった。病院も身元の分からない女性の出産に応じることもなかった。ゆえに、誰にも相談できず、隠れて出産し、児童遺棄へと発展するこ

ととなっていた。が、インターネットの普及によって、赤ちゃんポストが、支援を欲する人にとって貴重な社会資源となったのである。

また、赤ちゃんポストの設置主体が、病院ではなく、幼稚園や保育園を運営するNPO団体であったということも重要であろう。SterniParkが運営する施設で働く人のほとんどが幼稚園教諭や保育士などである。乳幼児とかかわりの深い実践者たちの間で生まれた母子の救済システムが、赤ちゃんポストなのであった。日本で赤ちゃんポストが広まらない理由に、こうした設置主体の違いがあるように思われる。SterniParkでは、赤ちゃんポストの設置後に、新たに母子生活支援施設を設置している。これは、実に自然な流れである。赤ちゃんポストにわが子を預ける前の段階で母子を支援しようとするのは、極めて自然な成り行きである。このように、ドイツのBabyklappeは、乳幼児の教育、保育にかかわる人々の間で生まれ、そして広まっていったのである。

さらには、児童福祉の在り方そのものもドイツと日本とでは大きな違いがある。それは、日本が施設養護中心であるのに対し、ドイツでは、里親、養子縁組が大きな役割を果たしている、という違いである。本インタビューの中でも、「一人の子どもに対して、およそ26組の養父母が申し込みをする」、と語られている。しかし、日本では、里親制度、養子縁組制度が存在しながらも、社会的養護が必要な子どもは児童養護施設に措置されるのが主である。ここに、日本の養護の問題がうっすらと浮かび上がってくるのである。これについては、また別の機会に詳しく論じることにしたい。

いずれにしても、赤ちゃんポストは、困窮下の女性とその子どもを救済する実践であることは間違いない。しかも、それは、法や社会的規範を超えた実践でもある。ゆえに、非常に論争的であり、その評価も様々なのであろう。

本インタビューは、J.Stiss氏との対話であった。さらに筆者は、SterniParkにおけるFindelbabyプロジェクトの代表のLeila Moysich氏へのインタビューを行なっている。これについても、『世界初の「赤ちゃんポスト」を設置したSterniParkとの対話2』として公開したいと考えている。